2016 年 8 月 19 日
日　本　銀　行
金　融　市　場　局

国債市場の流動性指標※

＜長期国債先物市場＞

図表１：出来高と取引サイズ （volume）

図表２：ビッド・アスク・スプレッド（tightness）

図表３：板の厚み（depth）

図表４：価格インパクト（resiliency）

＜現物国債市場＞

図表５：ディーラー間取引高（volume）

図表６：投資家等の売買動向（volume）

図表７：対顧客取引のビッド・アスク・スプレッド（tightness）

図表８：対顧客取引の提示レート間スプレッド（depth）

図表９：残存年限別の提示レート間スプレッド（depth）

＜ＳＣレポ市場＞

図表１０：ＧＣ－ＳＣスプレッド

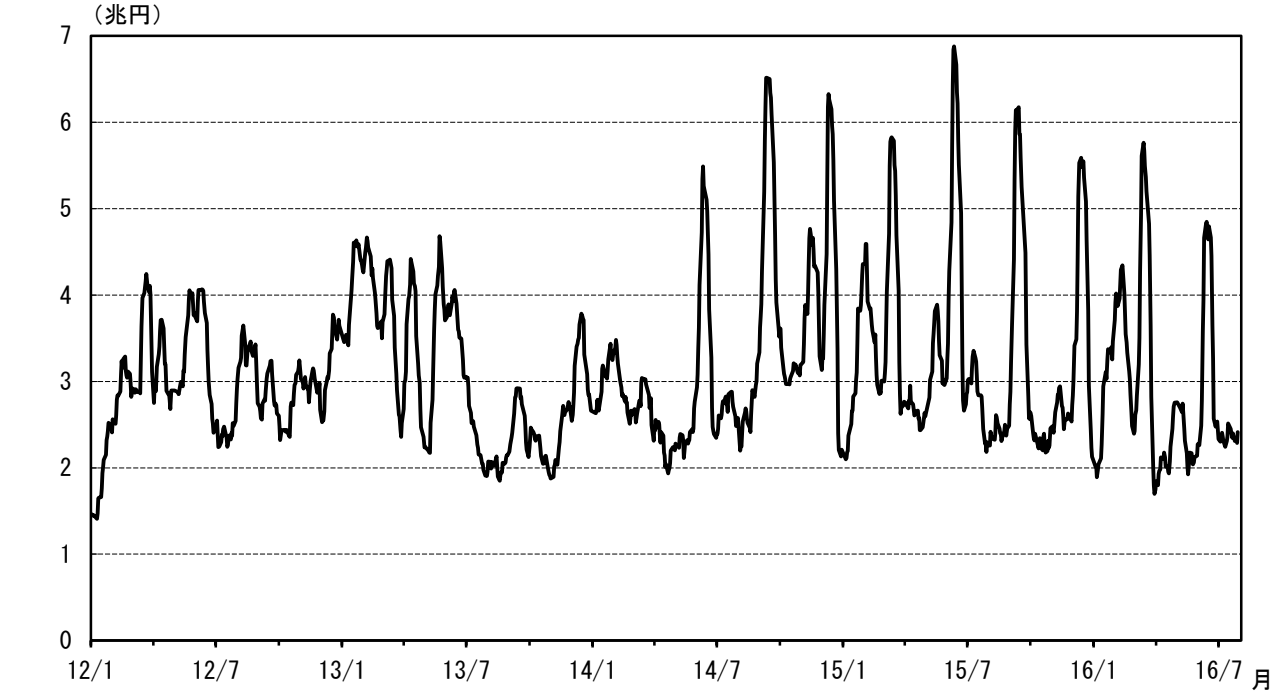
図表１１：ＳＣレポレート

※ 各指標の定義等については、黒崎・熊野・岡部・長野「国債市場の流動性：取引データによる検証」日本銀行ワーキングペーパーシリーズ No.15-J-2、2015 年 3 月を参照。

（図表１）

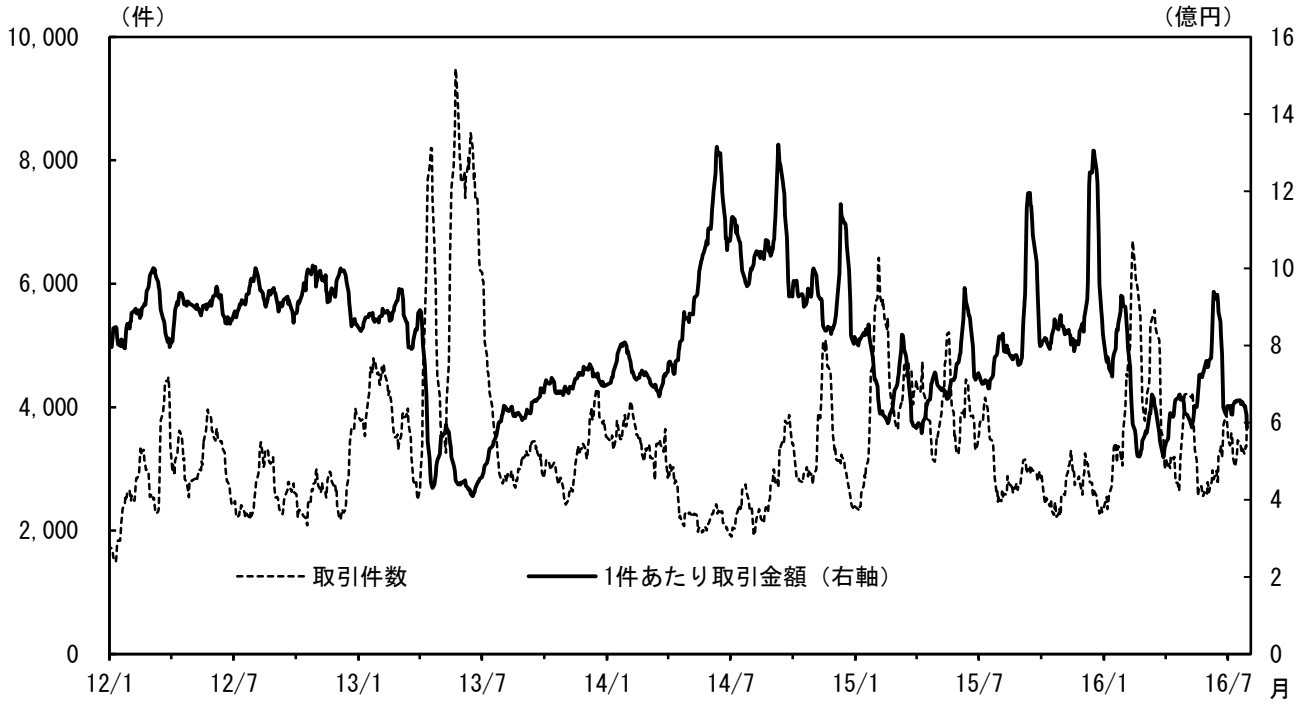
長期国債先物の出来高と取引サイズ（volume）

（１）長国先物の出来高



（注）後方10日移動平均。直近は7月末。
（資料）QUICK、大阪取引所

（２）取引件数と1件当たり取引サイズ

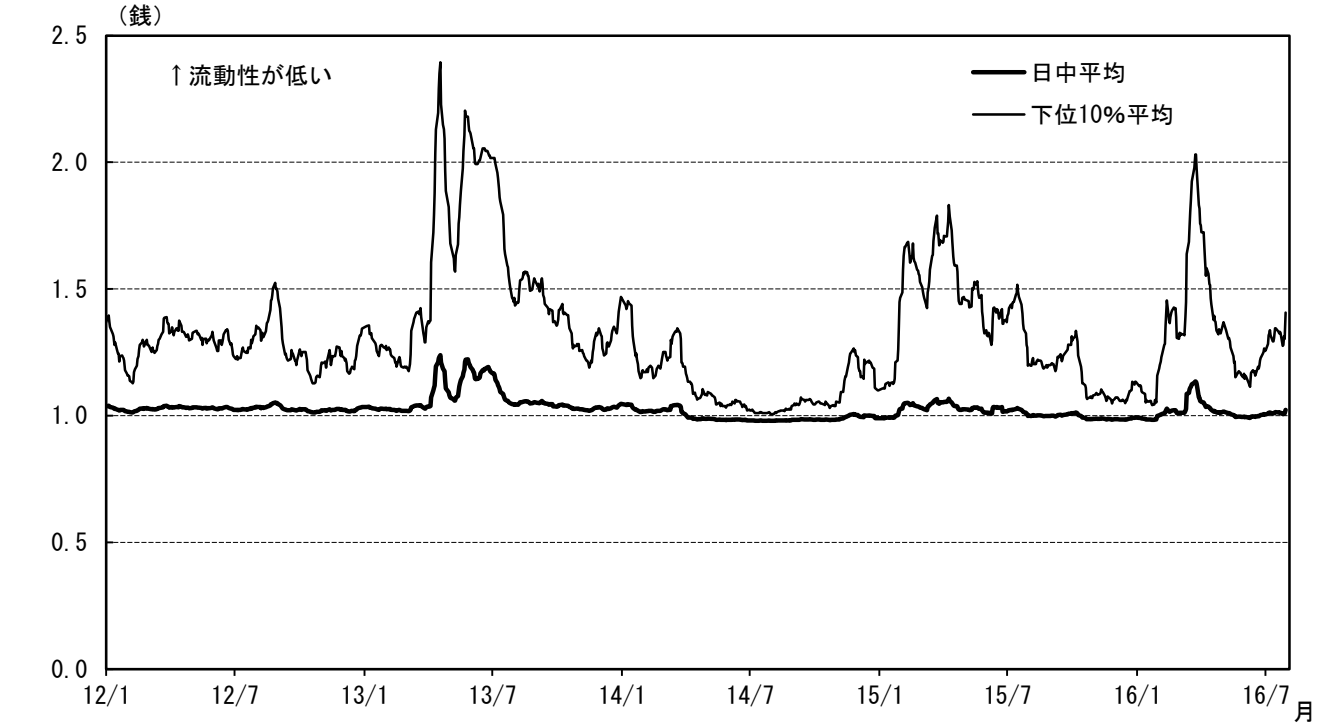


（注）後方10日移動平均。直近は7月末。
（資料）日本経済新聞社「NEEDS」

（図表２）

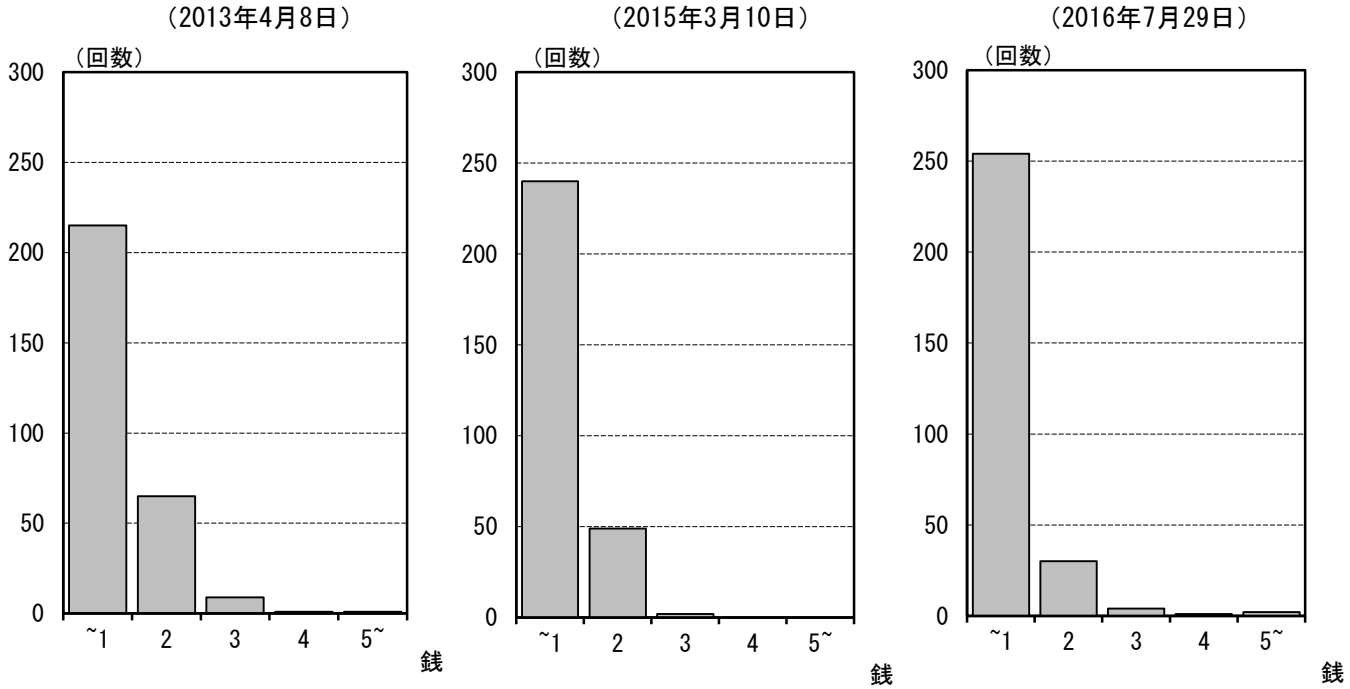
長期国債先物のビッド・アスク・スプレッド（tightness）

（１）ビッド・アスク・スプレッド（1分足データの日中平均、下位10%平均）



（注）1.後方10日移動平均。直近は7月末。
2.ビッド・アスク・スプレッドは、1分毎のスプレッドから算出。下位10%平均は、各営業日（1分足）について、スプレッドが大きい方から10%分のデータを抽出し、平均したもの。

（２）ビッド・アスク・スプレッドの出現頻度分布（1分足データ）



（注）1.2015年3月10日は、2015年中でもっともビッド・アスク・スプレッド（下位10%平均）が拡大した日。
2.2016年7月29日は、2016年5月以降でもっともビッド・アスク・スプレッド（下位10%平均）が拡大した日。
（資料）日本経済新聞社「NEEDS」

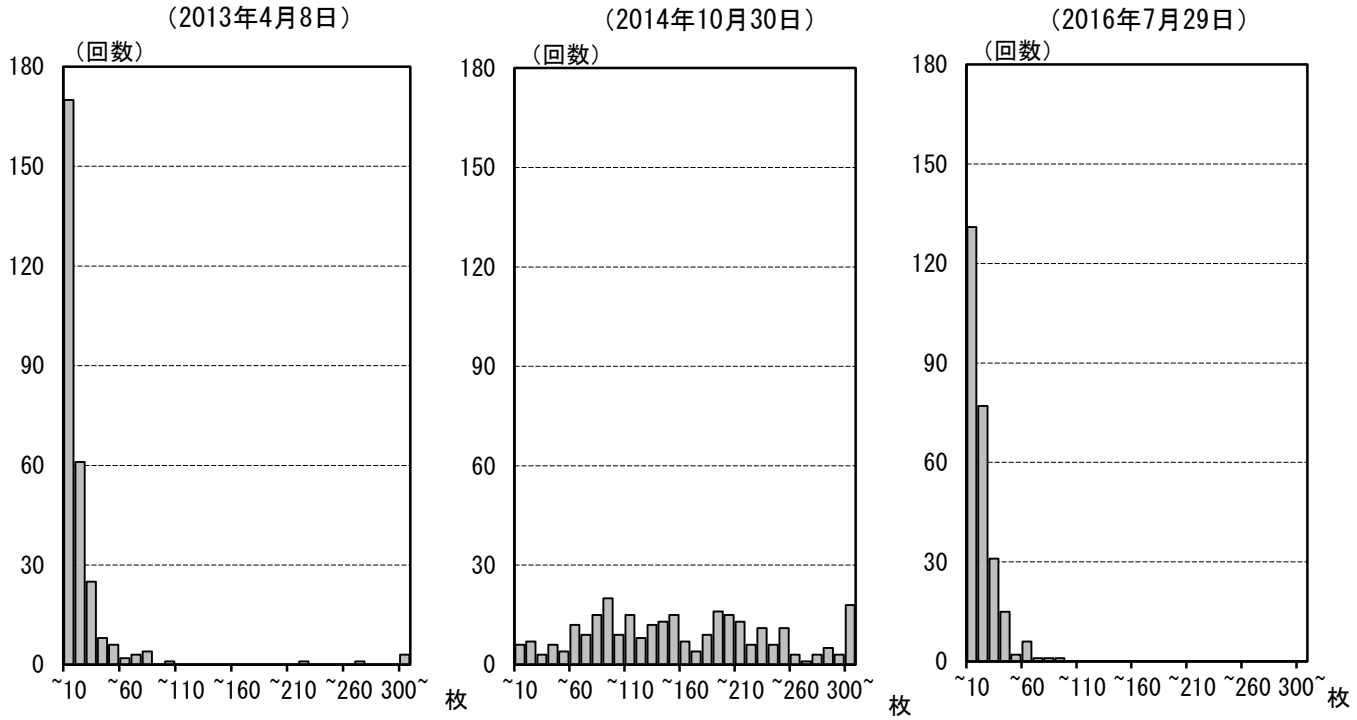
（図表３）

長期国債先物の板の厚み（depth）

（１）長国先物の板の厚み（ベスト・アスク枚数）

（注）1.後方10日移動平均。直近は7月末。
2.各営業日において1分毎にベスト・アスク枚数を計測し、その中央値をプロットしたもの。

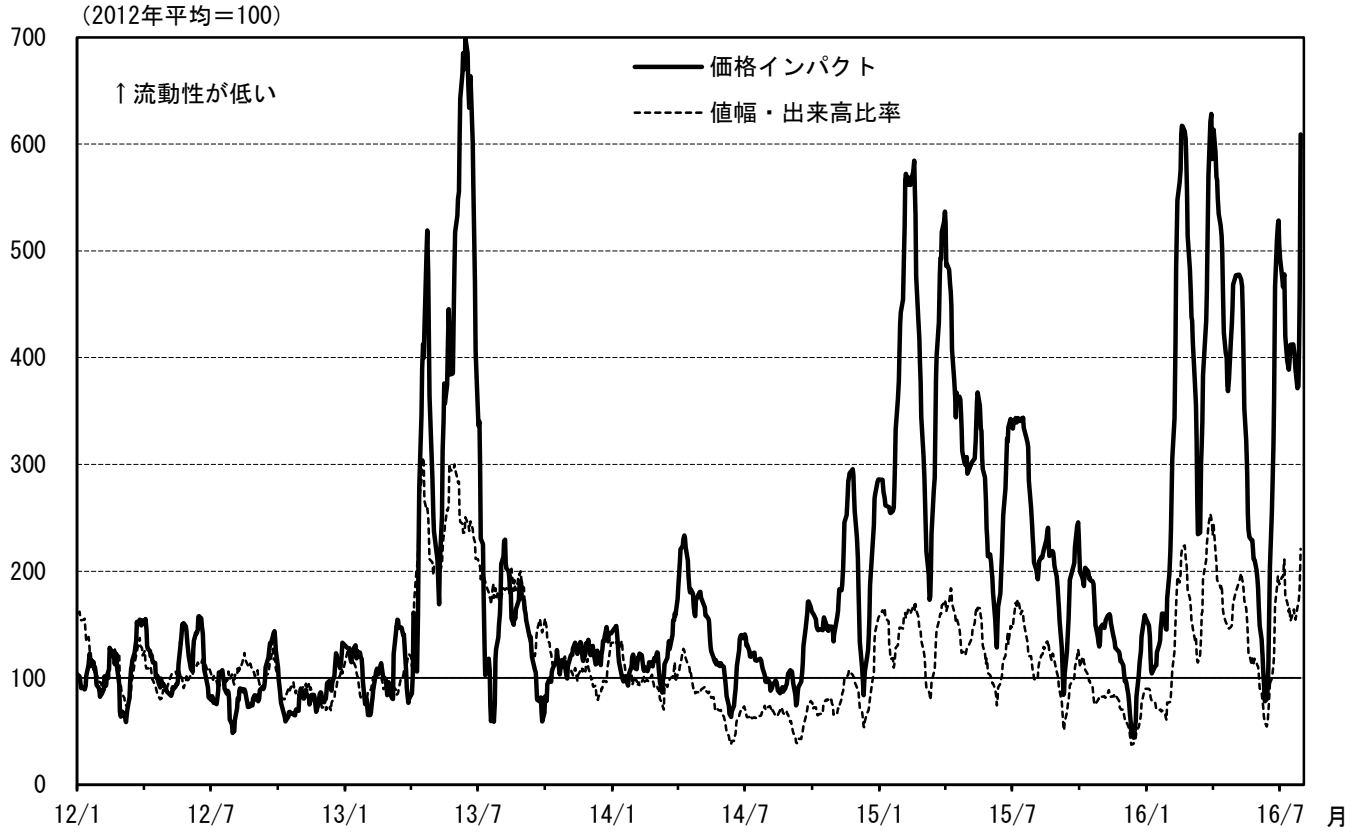
（２）ベスト・アスク枚数の出現頻度分布



（注）各営業日において1分毎にベスト・アスク枚数を計測し、その出現回数を足し上げたもの。
（資料）日本経済新聞社「NEEDS」

（図表４）

長期国債先物の価格インパクト（resiliency）

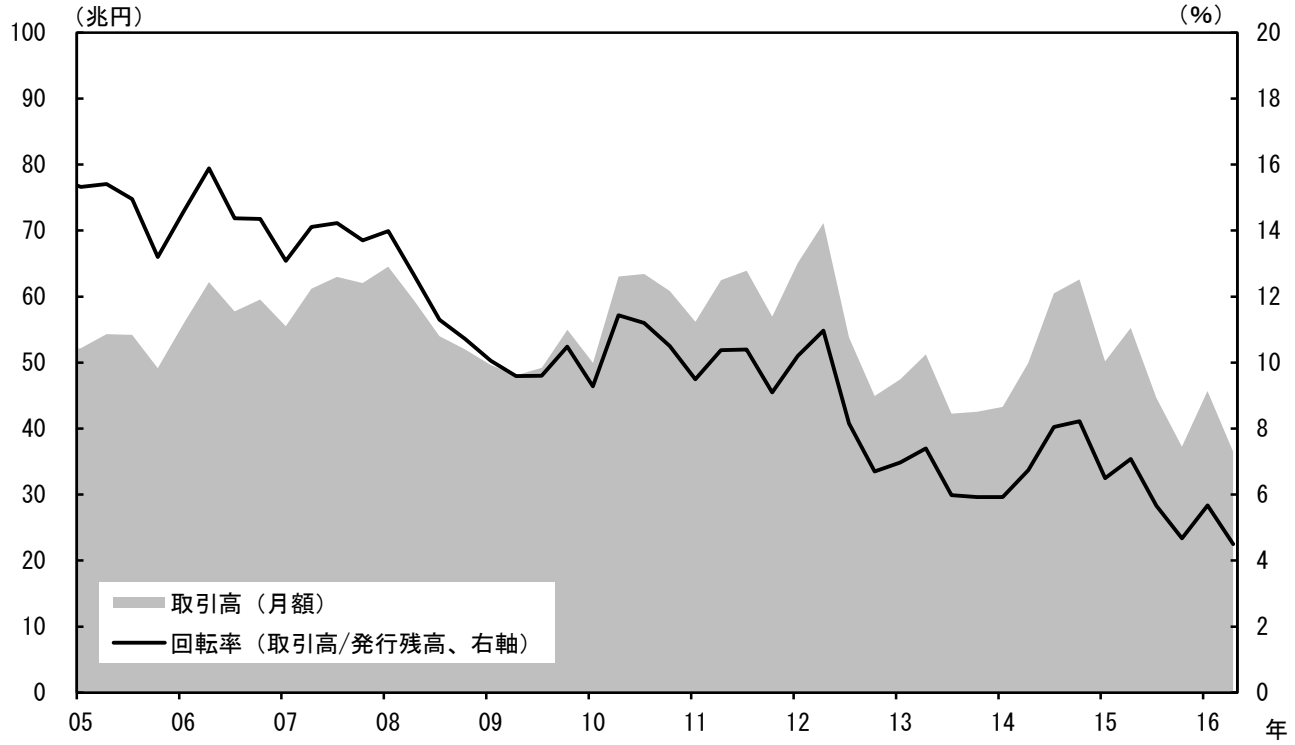


（注）価格インパクトは各営業日の平均。後方10日移動平均。直近は7月末。
（資料）日本経済新聞社「NEEDS」、QUICK、大阪取引所

（図表５）

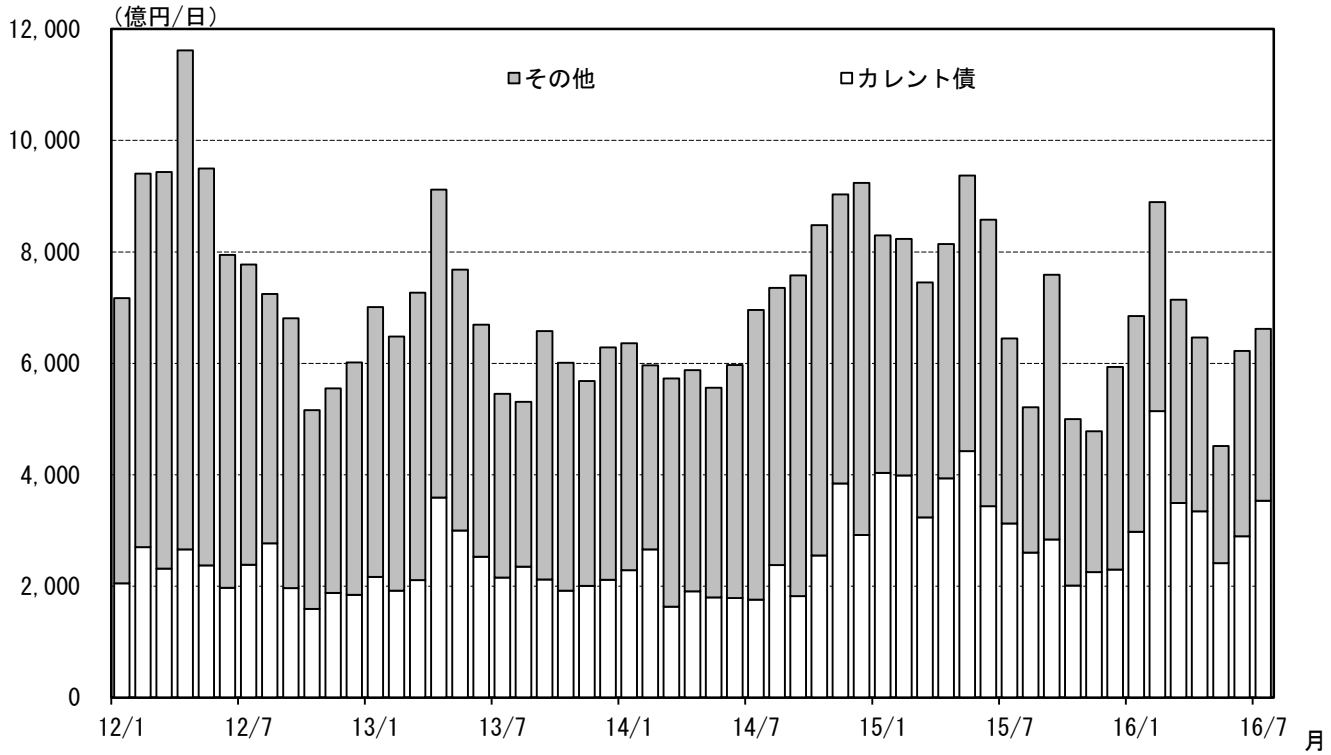
現物国債のディーラー間取引高（volume）

（１）ディーラー間の国債取引高（日本証券業協会）



（注）取引高は国庫短期証券等を除く。直近は4～6月。
（資料）日本証券業協会、財務省

（２）ディーラー間の国債取引高（日本相互証券）

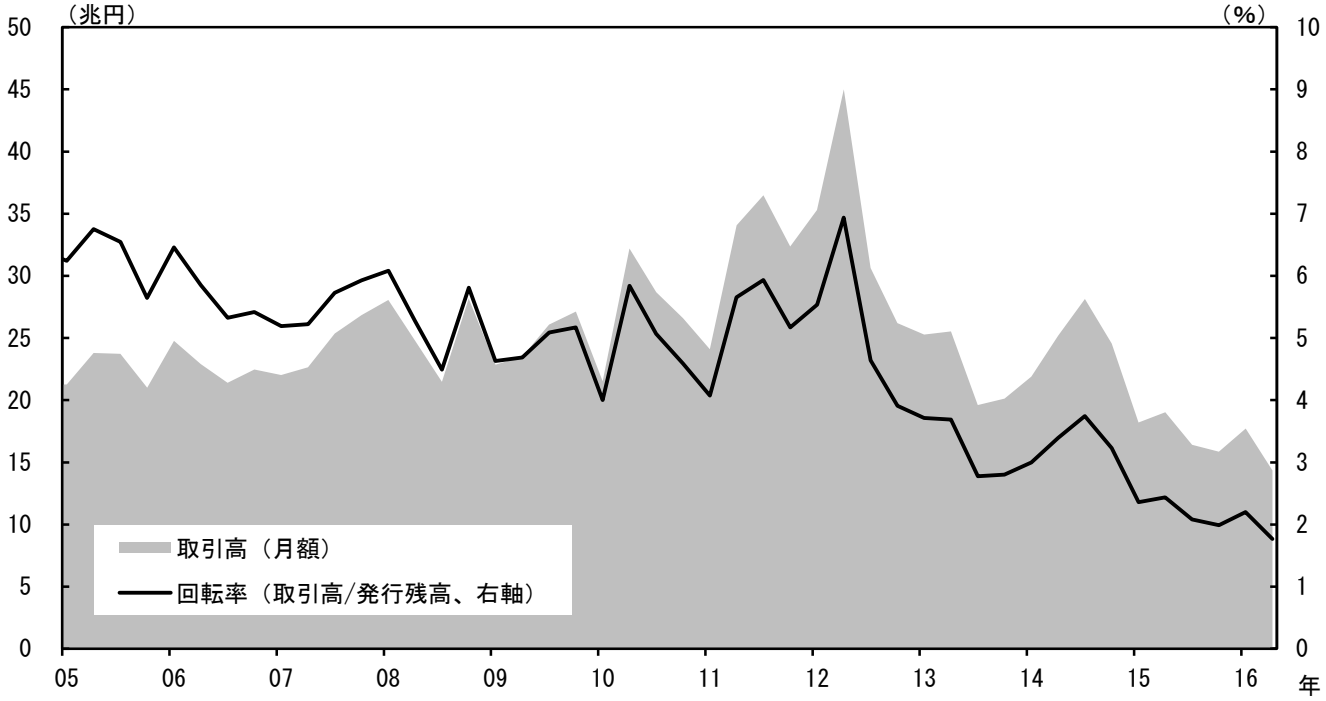


（注）2、5、10、20、30、40年債の1日当たり取引高（日本相互証券）。直近は7月。
（資料）QUICK

（図表６）

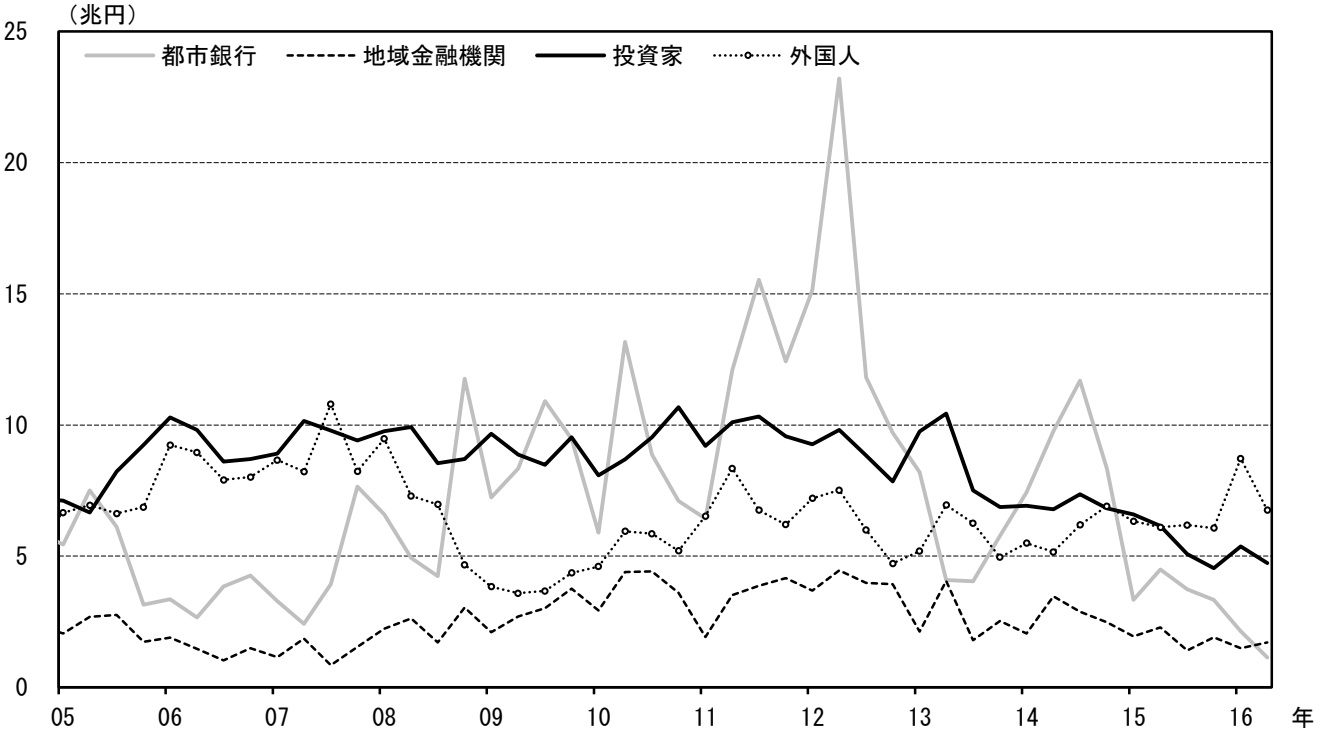
現物国債の投資家等の売買動向（volume）

（１）ディーラーの対顧客取引高（顧客の国債グロス買入れ額）



（注）1.取引高は国庫短期証券等を除く。直近は4～6月。
　　2.顧客は、「その他」（政府、日本銀行、ゆうちょ銀行、かんぽ生命等）を含まない。
（資料）日本証券業協会、財務省

（２）対顧客取引の内訳（顧客の国債グロス買入れ額、月当たり）

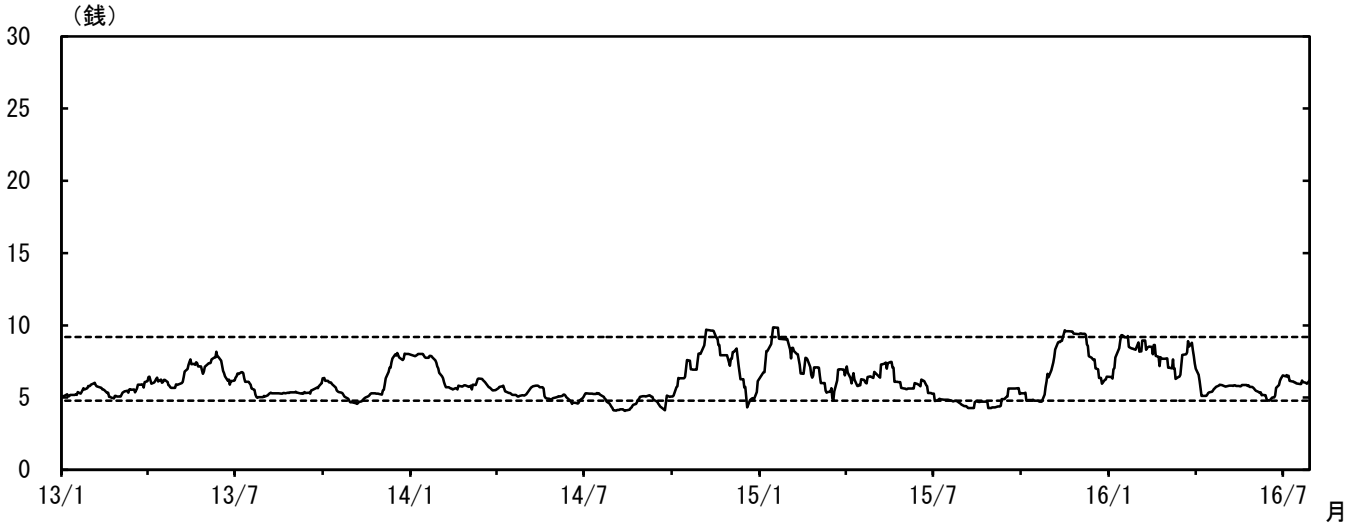


（注）投資家は、生保・損保、信託銀行、農林系金融機関、投資信託、官公庁共済組合の合計。直近は4～6月。
（資料）日本証券業協会

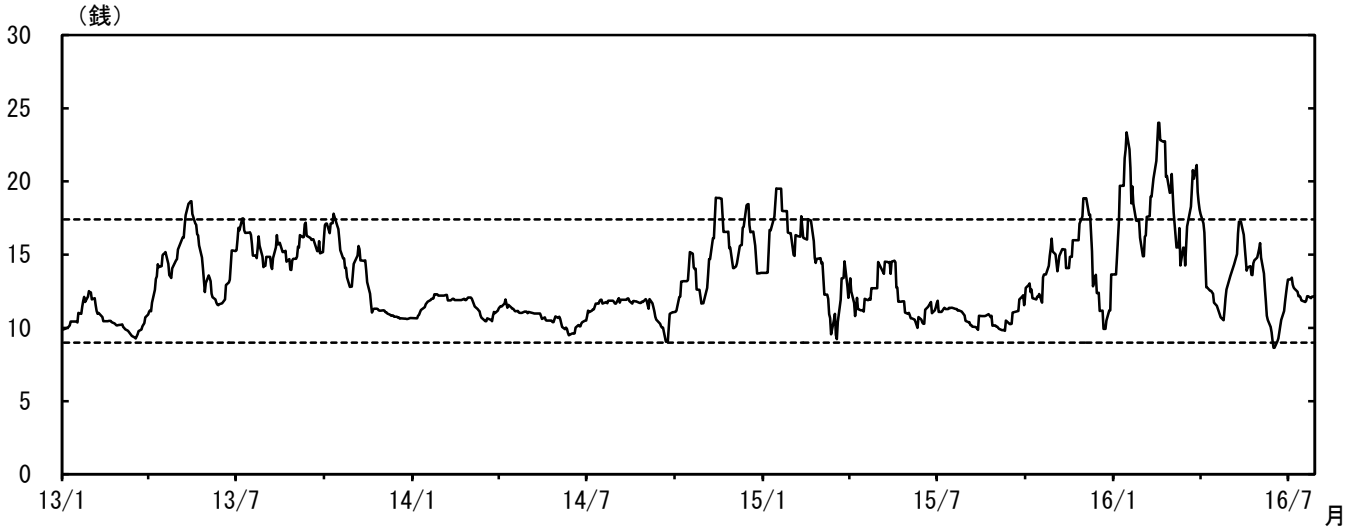
（図表７）

現物国債のビッド・アスク・スプレッド（tightness）

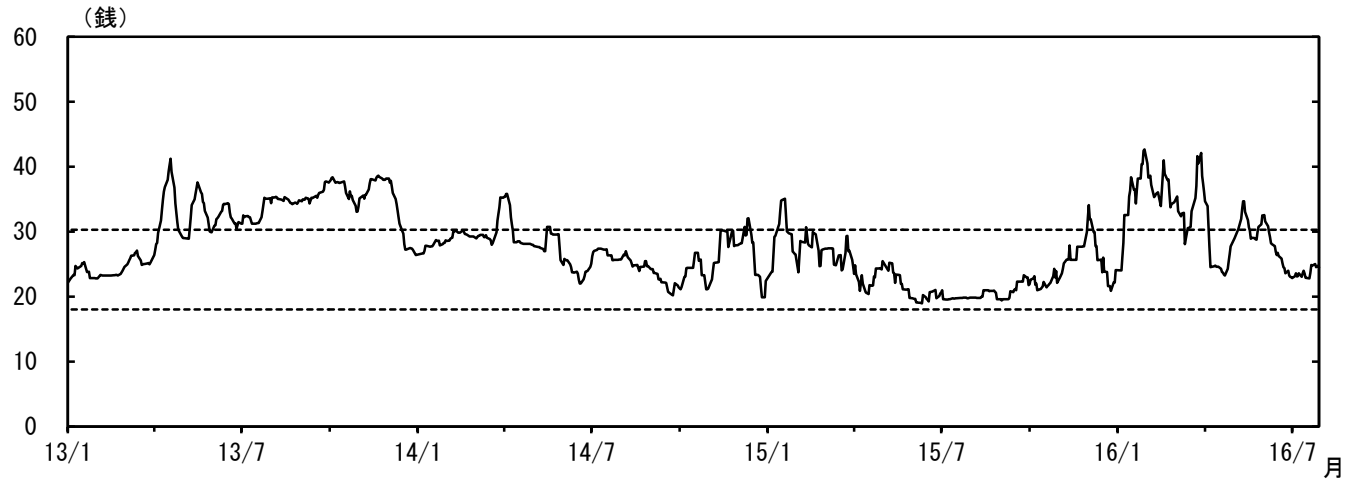
（１）５年



（２）10年



（３）20年

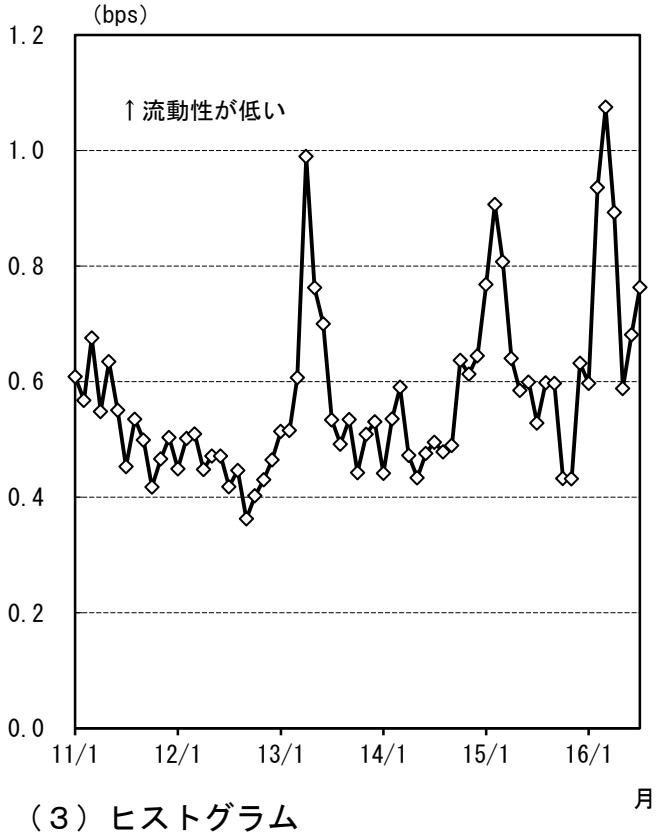


（注）Trade web気配値の後方10日移動平均。点線は、2010/1～2013/3月における第１四分位と第３四分位を示す。
直近は7月末。
（資料）トムソン・ロイター

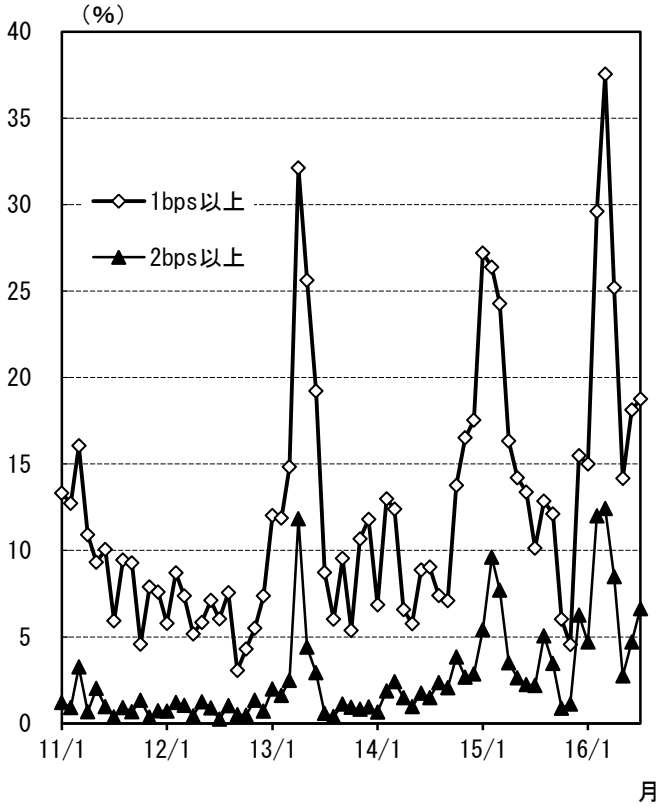
（図表８）

現物国債・対顧客取引の提示レート間スプレッド（depth）

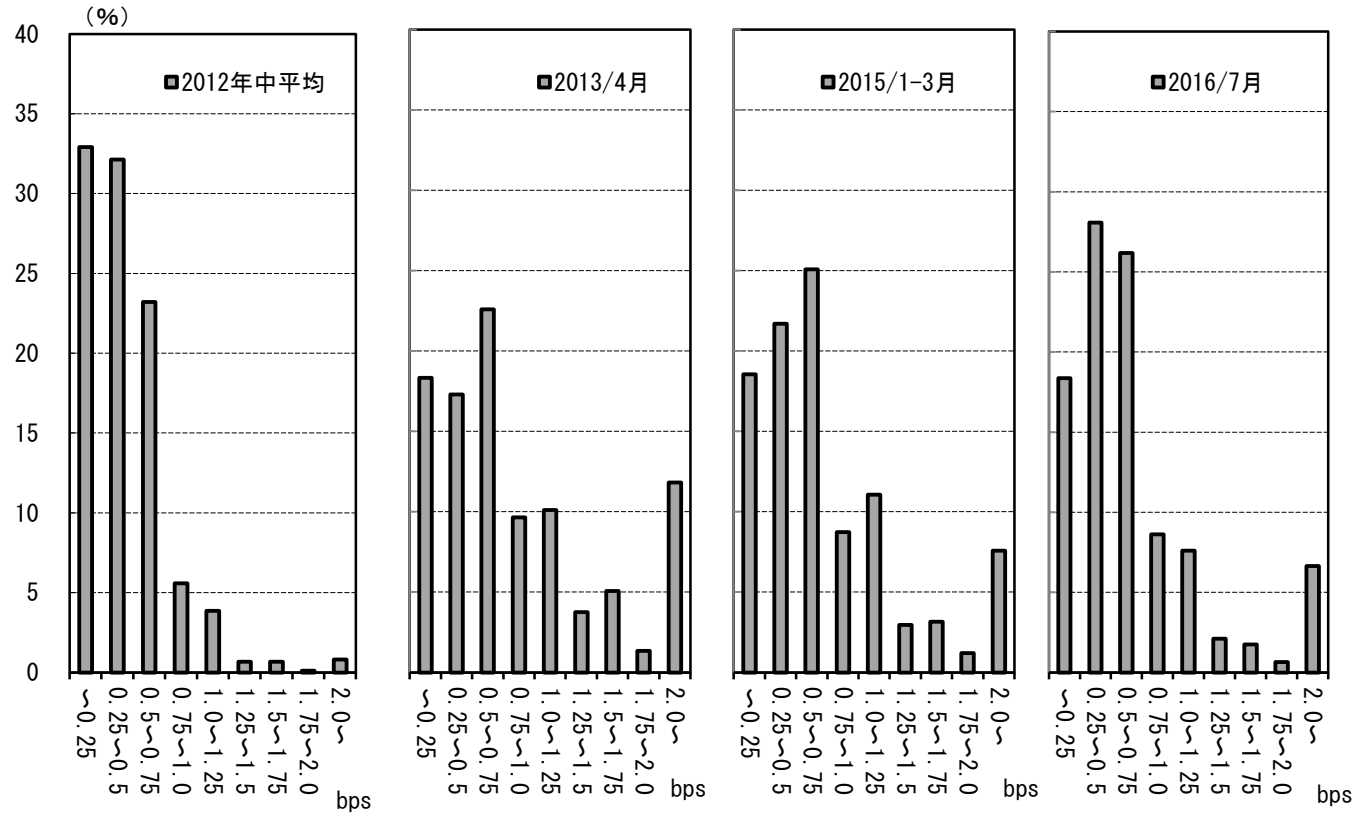
（１）提示レート間スプレッド（平均）



（２）同スプレッドが1、2bps超となる確率



（３）ヒストグラム

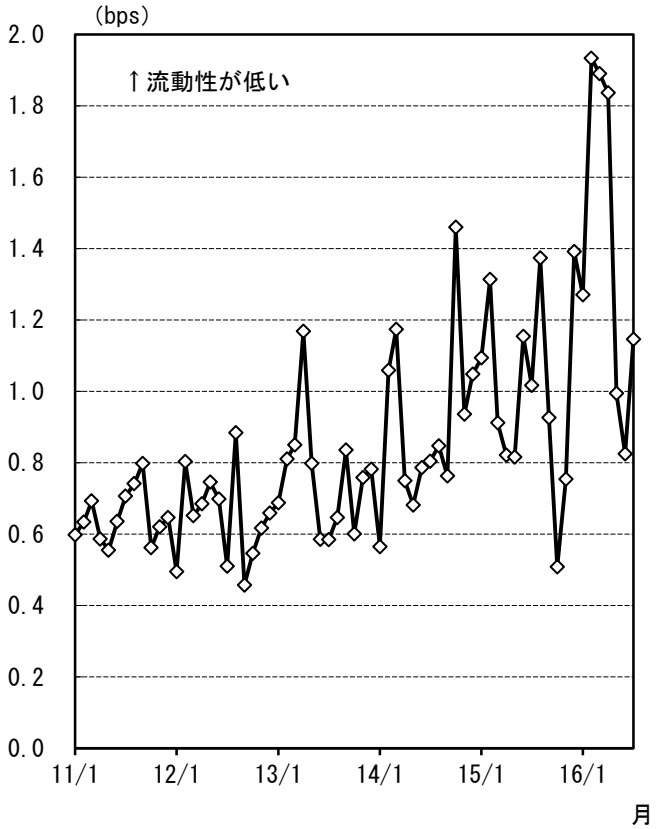


（注）スプレッドが10bpsを超える一部の取引を除外して集計。（１）、（２）の直近は7月。
（資料）エンサイドットコム証券

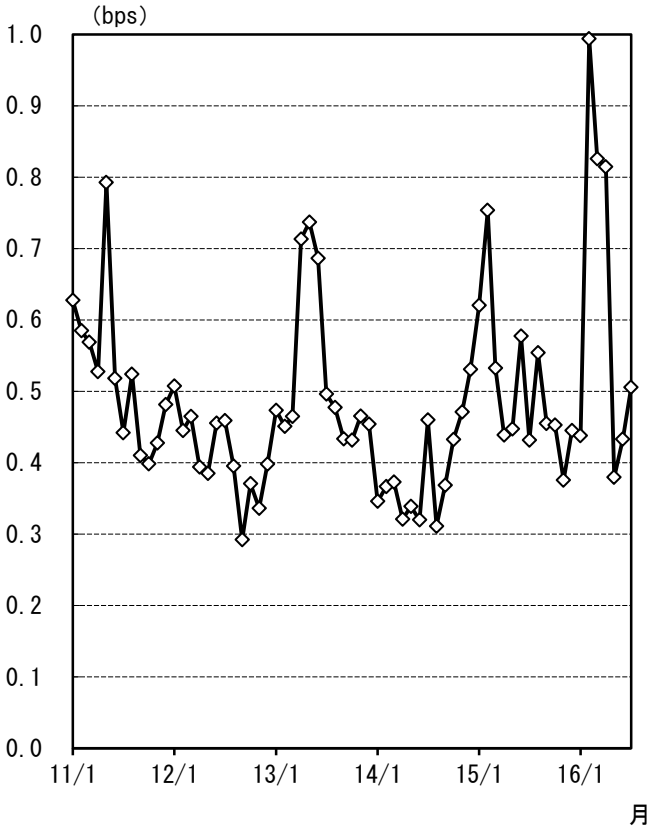
（図表９）

残存年限別の提示レート間スプレッド（depth）

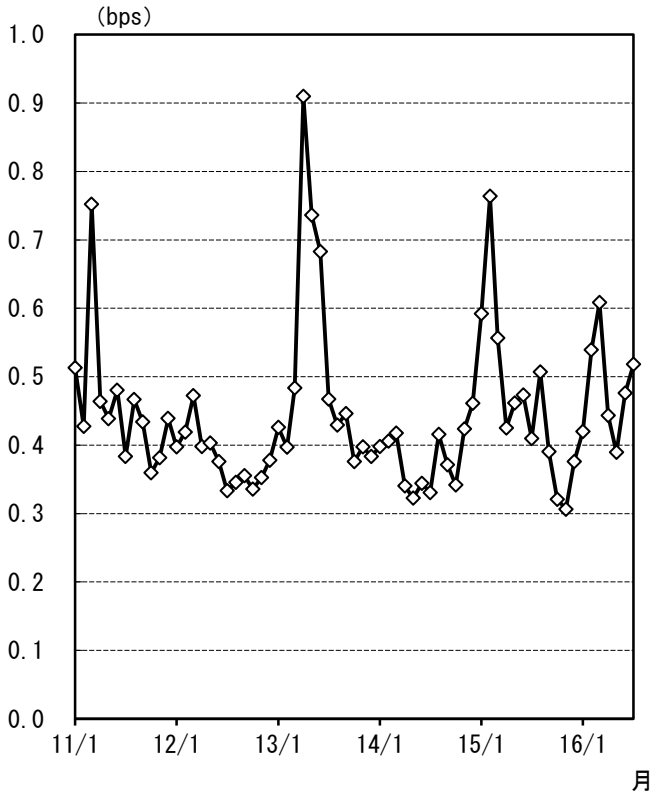
（１）短期ゾーン（２年以下）



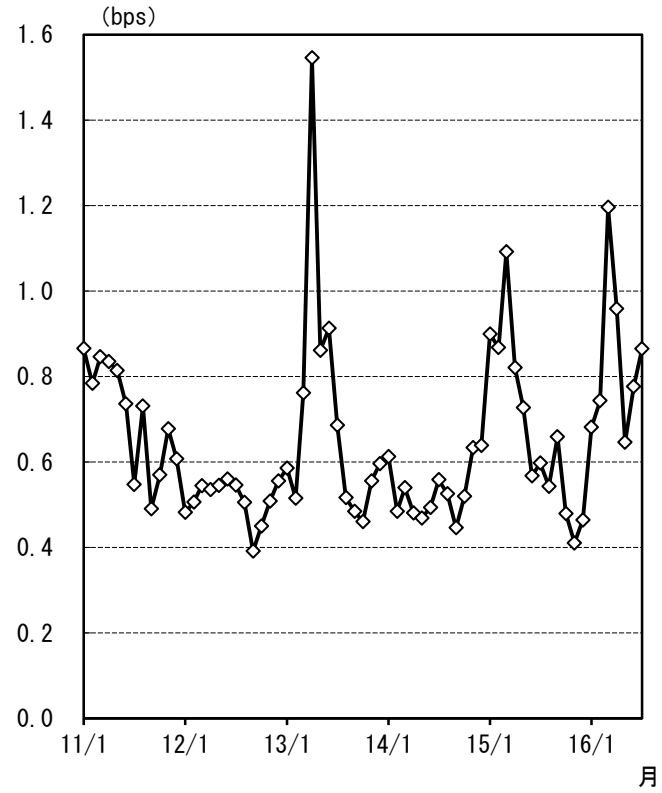
（２）中期ゾーン（２～５年）



（３）長期ゾーン（５～10年）



（４）超長期ゾーン（10年超）

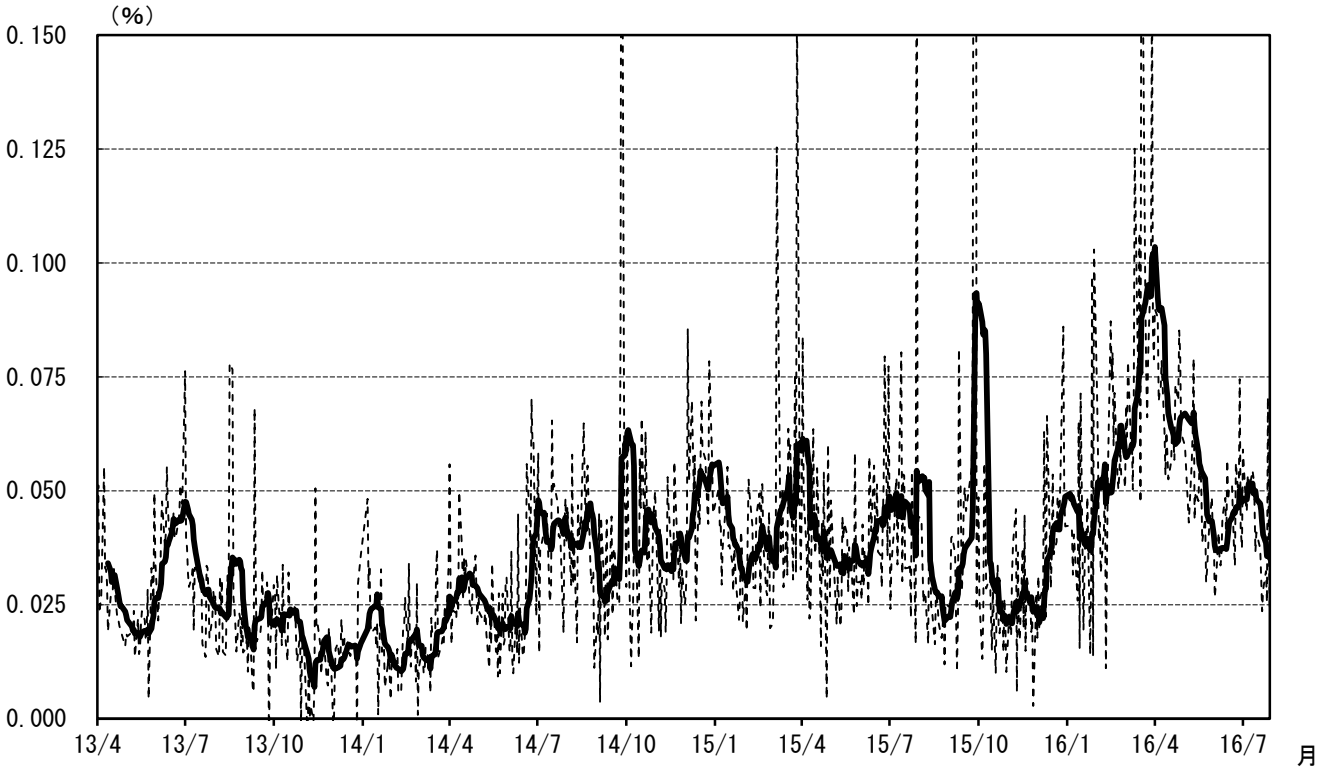


（注）スプレッドが10bpsを超える一部の取引を除外して集計。直近は7月。
（資料）エンサイドットコム証券

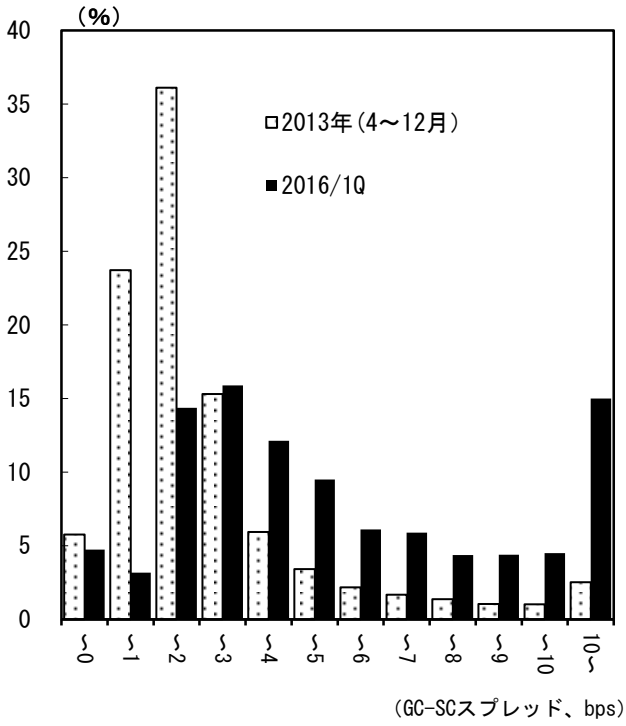
（図表１０）

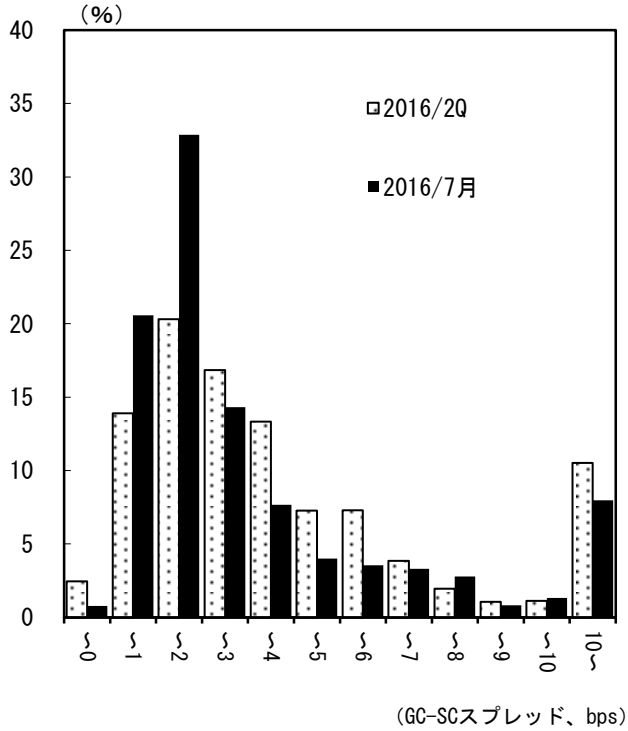
ＧＣ−ＳＣスプレッド

（１）GC-SCスプレッドの推移（全銘柄の単純平均）



（２）GC-SCスプレッドのヒストグラム

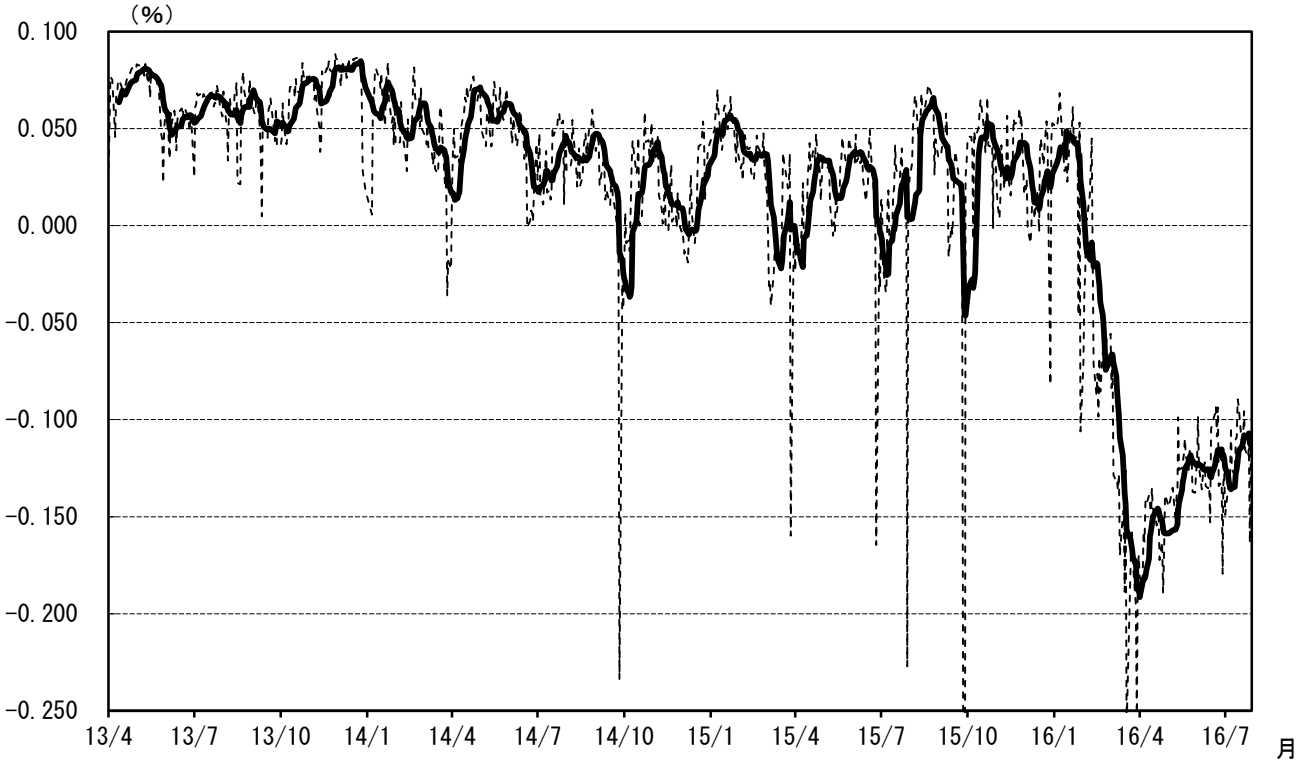




（注）1.（１）の太線は後方10営業日移動平均。直近は7月末。
　　2.SCレポレートはS/N。GCレポレートは、東京レポレート（T/N）。GC-SCスプレッドは、決済日を合わせる形で算出。
（資料）ジェイボンド東短証券、日本証券業協会

（図表１１）

ＳＣレポレート（S/N）



（注）全銘柄の単純平均値。直近は7月末。太線は後方10営業日移動平均。
（資料）ジェイボンド東短証券